

表 2 危害要因の性質等について（寄生虫）

○ 概要

- ・食肉等の生食により、ヒトへ障害を及ぼす主な寄生虫について取りまとめた。（表 2）
- ・細菌、ウイルスと同様に、一般集団に対する重篤性を考慮し、ヒトに対する影響の大きさを分類した。

| 病原体 | 病原体の性質等 | | ヒトへの感染源等 | | ヒトの主な症状 | 危害要因の 影響の大きさ (案) |
|---------------|--|-------------------------------|--------------|---------|--|------------------------|
| | 中間宿主 | 終宿主 | | | | |
| 有鉤条虫 | 豚等 (虫卵を摂取すると、囊虫 症になる。) | ヒト (成虫は小腸に寄生) | 豚 猪 | 筋肉 | <ul style="list-style-type: none"> ・囊虫を有する豚肉を摂取すると有鉤条虫症(成虫が小腸に寄生)：症状は軽微。腹部膨満感、悪心、下痢、便秘。 ・虫卵を摂取すると有鉤囊虫症(眼、心臓、肝臓等に囊胞を形成)。脳に寄生すると致死率 60~90%。 | B |
| トキソプラズマ | 猫以外の動物 (オーシスト*が摂取されると、無性生殖し、筋肉、脳、主要臓器にシスト*として存在。) | 猫 (成虫は腸管内に寄生。糞便中にオーシストを排泄) | 豚 羊 山羊 | 筋肉 脳 | <ul style="list-style-type: none"> ・オーシスト ・シストを含む中間宿主の食肉等。 ・シストは加熱処理で感染性消失。 <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど不顕性。重篤な場合は、リンパ節炎、肺炎などを起こし、死に至ることもある。 ・妊婦に感染すると胎児が先天性トキソプラズマ症(水頭症、視力障害、脳内石灰化、精神運動機能障害) | |
| 旋毛虫 (トリヒナ) | 宿主域は広く、陸棲・海棲のほ乳類や鳥類等に寄生 ・同一宿主に成虫(小腸)、幼虫(筋細胞)に寄生(宿主は終宿主であり、中間宿主でもある) | | 豚 猪 熊 | 筋肉 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫寄生の食肉。 <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉痛、発熱、悪寒、浮腫、好酸球増多。重症の場合は心不全、肺炎を併発し死に至ることがある。 ・致死率 0.2% (重篤性は摂取した幼虫の数に依存) | |
| 無鉤条虫 | 牛 (虫卵を摂取すると、囊虫症になる) | ヒト (成虫は小腸に寄生) | 牛 羊 山羊 | 肉 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般的に無症状、食欲不振、腹痛など。 ・囊虫症は起こさない。 | D |
| 肉孢子虫 | 草食動物 (筋肉中に虫体を内包するサルコシスト*を形成) | イヌ・ネコ科の食肉動物、ヒト | 牛 豚 馬 | 筋肉 | <ul style="list-style-type: none"> ・オーシスト ・サルコシストを含む食肉。 <ul style="list-style-type: none"> ・消化管サルコシスティス症：下痢や嘔吐等。 ・筋肉サルコシスティス症：発熱や筋肉痛。 ・症状は一過性、自然寛解する。重症化事例の報告はない。 | |
| アジア条虫 | 豚 (虫卵を摂取すると、囊虫が肝臓に寄生) | ヒト (成虫は小腸に寄生) | 豚 | 肝 | <ul style="list-style-type: none"> ・囊虫寄生の肝臓。 <ul style="list-style-type: none"> ・下痢と不快感。 ・虫卵を摂取しても囊虫症を引き起こすことはない。 | |
| ウエステルマン肺吸虫 | 淡水産のカニ (幼虫が寄生) ・猪が幼虫を有する中間宿主を摂取すると待機宿主となる。 | イヌ・ネコ科の食肉動物、ヒト (成虫は肺に寄生) | 猪 | 筋肉 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫寄生の肉。 (幼虫寄生のサワガニやモクズガニも人への感染源として重要) <ul style="list-style-type: none"> ・発咳・血痰 ・皮膚や脳の異所寄生もあり、虫の異動に伴い腫脹がみられる。(脳内では頭痛、嘔吐、てんかん発作を起こす) | C |

※環境中にあるのはオーシスト、食肉中にあるのはシストやサルコシスト。